

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274201702		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	グループホームあいの街東新田		
所在地	静岡県静岡市駿河区東新田4丁目16-2		
自己評価作成日	平成27年11月5日	評価結果市町村受理日	平成27年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyouCd=2274201702-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成27年11月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根付き、その人らしい生活をして頂けるよう、その人にあった個別ケアにて対応し、第2の家庭のように、穏やかで温もりのある環境づくりをし、毎月のイベント行事にも力を入れ、利用者様、家族、職員間の、コミュニケーションを深め、また小規模の利用者様、職員とも交流をし施設全体のモチベーションアップの向上に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

一般ヘルパーとして此処での4年勤務の経験を経て本年10月に着任の新管理者は率直で前向きな面が心地よく、職員目線での態勢づくりに余念がありません。前回の外部評価で目標とした「併設事業所との職員交流」は、清涼祭ではソーメン流しの戸井を皆で組み立て、地域医療機関の講堂を借りてのミニ運動会では休日返上で準備した種目で笑い転げたと、頼もしい達成度です。また地域包括支援センターを介して小学校での授業を担当したことから生徒の発表会に参観者として招かれ、その後は子どもたちが学校帰りに立ち寄るようになったとの例からは、一つを二つ、三つへと膨らめることが上手な事業所の特長が覗えます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼で唱和し、一日の開始時に意識を高めメリハリをつけている。定例ミーティングで再確認をしている。	年度初めにたてる個人目標は大なり小なりベースは理念です。「この人にはこの方法がベストだね」とミーティングで確認してケアの標準化を図りつつ、そのやりとりを通じて理念を裏付けとして言い続けています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入しており、定期清掃の参加、近隣の小学校のイベントや昭和の集いの歌会等、地域行事に参加し、交流を深めている。地域の小学生が立ち寄って下さり、利用者様と折り紙や塗り絵などして、交流を深めている。	小学校での授業を担当したことから生徒の発表会に参観者として招かれ、その後は子どもたちが学校帰りに立ち寄りようになっていきます。また座布団の寄付のエピソードからも親しみある事業所であることが覗えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長様、組長様と連絡を取りながら、運動会、お祭り、防災訓練等の参加を通して、地域の皆様に認知症への理解を深めて頂けるよう交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに、運営推進会議を開催し、報告、話し合いを行っている。出席される家族代表も定期的に他家族と交流を図りより良い施設設備等を築いていく為に様々な意見を組み入れサービス向上に活かして行けるよう努めている。	日程を予め決めメンバーも固定して併設事業所と合同で開催できています。会議の場では「延命措置を含めた救急搬送の合意書面を整えたほうがよいのでは」との助言も市役所職員からもらえ、役立っています。	30分という時間に凝縮させ内容に不具合はないものの「遠方から短時間のために」とも思うため、解散後引き続きおやつを試食会などで親交を深めることも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者と運営推進会議での意見交換はあるが日頃から密に連絡を取る関係には至っていない。地域包括との連絡は些細な相談にも積極的に協力頂けるような関係を築いている。	小学校でのゲストティーチャーの依頼は地域包括支援センターからのもので、「(道路沿いに面した室の)カーテンを開けておいたらどうか」との案もくださり、そのことが契機となり座布団の寄付につながっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部、各事業所の年間研修にも組み込まれており、全ての職員が定期的に研修に参加し、身体拘束内容を正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	知識的な学びについては法人本部の研修に1~2名が向向き、その後所内勉強会で浸透させています。利用者の状態に応じてケースバイケースのため、都度話し合うことで解決することを旨とし、またその場で注意しあえる風土も併せもっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例ミーティングを行い職員間で話し合い、今後の課題、反省を含め虐待を未然に防ぐ対策をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度関係者と関わりを持ち、個々の必要性について話しあい、活用している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約に基づき十分な説明を行い、利用者や家族の理解、納得できたのか否かを確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本部から各事業所、利用者や家族、地域に配布する通信と施設内独自の毎月発行するお便り等運営に反映させている。	「イベントがあれば手伝う」「私たちも愉しむ」ということが浸透していて、家族からは「楽しいことが好きななのでいつも来ちゃいます」との言葉もこぼれています。また毎日のように食事介助に訪れる家族もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、定例ミーティングでは全体の意見交換出来る場を設け、個々に発言できる時間を提供している。それぞれの意見を取り入れ働きやすい環境づくりと運営に反映できるように努めている。	最近まで仲間であった管理者が同じ目線で一緒に考えるため、オープンな会議運営ができています。食事や薬、レクリエーションと分野に添って担当を決めて責任感を養うことで発言を促しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	本部、各事業所で定期的に人事考課に取り組む期間あり、管理者、職員の自己評価シートにて勤務状況や個々の努力、能力、適性を見出し、向上心を持って働ける環境を築いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本部で質の向上アップを目指した法人内外の研修を徹底している。毎月研修を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の意見交換や勉強会等、積極的に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に必要な時間を設け、要望を受け止める関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、要望を受け止める関係づくりを築いている。相談員を導入している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族から必要とされている意見を聞き、優先する課題、意見を見出し、他サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力、機能を見極め、出来る事は見守り、必要な個所は支援しながら共有の時間を過ごしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の情報を共有し、交換しながら支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生日、敬老会、家族会等、イベント開催により、これまでの生活を大切にし、馴染みの関係が途切れないように努めている。	“家族が来なくなる事業所、を充実したイベントで実現させる一方で、以前の勤務での知り合いや兄妹の面会も続いています。「新聞が～」「相撲が～」「歌が～」好きとの想いにはテレビ番組に配慮して応えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士が関わりを持てるよう努めている。コミュニケーションが取れない利用者の方には雰囲気馴染める環境を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後これまでの関係を断ち切らず相談援助を行っている。必要に応じて経過フォロー対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で意思を伝える事が困難な利用者には表情やしぐさ等を汲み取り、出来る限り本人の希望や意向を把握出来る様に努めている。発語ノートを利用している。	職員は表情やしぐさから気づいて居室に誘導し、不穏になることを未然に防ぐよう努めています。調査訪問時にも職員が本人の癖や習慣を熟知した判断をしていることを垣間見ることができました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの自宅での様子、以前の利用状況、本人、家族、他サービスを通じ関わりを持ち経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の身体状況観察、1日の活動リズム等、注意深く観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当を決め一人だけの観察だけでなく複数の担当者の観察や情報を収集し家族や多職種間で現状や要望を話し合い、様々な意見を取り入れた介護計画を作成しています。	サービス担当者会議はそのためだけでは難しい家族の意向を汲みイベントでの隙間の時間を使っています。職員意見はカンファレンスのなかで反映させ、家族の意向聴取は計画作成担当者がおこない一元化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々ごと記録に記載し、常に気づいたこと、様子等、職員間で情報提供している。ミーティング等で見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な対応が出来るよう本人、家族の状況や要望を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用し、安全で楽しく生活出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望される病院に定期受診を依頼し、緊急時、総合病院の受け入れと訪問診療が入った事で医療との環境が向上している。	自由に選ぶことができ、かかりつけ医を継続する人もいます。2つの協力医療機関どちらを選択しても往診してもらえます。ただし、看取りを此処でという希望がある場合は、医療側の都合で近隣の協力医のみとなります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職の訪問時には些細な変化も記録に残し口頭により伝達し、必要に応じて受診を受け入れる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関、往診医師との密な連絡、相談し合い医療関係の連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当施設において、出来る限りの終末期ケア対応に努めています。本人、家族、地域、医療との連携を図りチーム全体で支援に取り組みながら、終末期、重度化された状況の方への支援を受け入れています。	本年初めてお見送りの実績が1例ありました。実際取り組んでみて「家であることを家族の代わりにおこなうんだ」「これ以上(医療的措施)のことはしてあげられないんだ」という現実を真摯に受け止めることができ、今後はメンタル面のフォローを課題としています。	近隣の寺社や教会から専門家を招いての死生観の学習も一考くださることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本部、施設研修等を通じ、定期的な学習と訓練を実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回の防災訓練では消火器の使い方、通報方法、搬送タンカ、消防署員の指導を仰ぎ実施しています。地域、家族の方々にも防災への理解と知識を深めて頂けるよう参加の呼びかけを行っています。夜間想定訓練も実施している。	年3回の訓練では夜間想定を主として通報、避難、水消火器、搬送をおこない、1回は消防署の立ち合いがあります。カラオケで頻回に会う自治会長には常々「お願いします」と伝え、地域の防災訓練にも参加しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部、外部、接遇マナー等の研修に参加し、利用者に誇りやプライバシーを持つての対応をしている。名前の呼び方や入浴、排泄等、同性を希望する場合の対応も心がけている。	元気の良い挨拶や歓待の声がけはありますが、視認の範囲では利用者の性向に合わせた変容(声の大きさや言葉の選び方など)があまり見られず、職員のもつ個性のままでの言動のように映りました。	一部でなく全体として視認どおりであれば“合う、合わない、がでしまう”可能性があります。改めて振り返りがあることを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、誘導により本人の希望される思いを引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活パターンを把握し、その人らしい生活が継続できる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を優先し、好みの洋服や髪形等、選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意欲や希望により食事の準備、片付け等共に行っている。	業者から届くメニュー食材で平日は調理し、土日はご飯と汁物以外はレトルトです。食器拭きは利用者がおこない、時には包丁さばきを魅せてもらえることもあります。さつま芋の茶巾絞りなどおやつレクもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事形態に応じた対応に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の確認は職員と共に行い、必要に応じて往診歯科を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難、不十分な利用者に対し、職員2人でトイレ誘導 介助し、排尿、排便が出来る様に対応しています。	ベッド上のおむつ交換が恒常化した人でも昼間はリハパンを使用してもらい、立位を保つことも兼ね気持ち良く過ごしてもらえるように陰部洗浄をおこなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や食物、水分補給を通じ自然な排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴剤の使用、利用者の作品を展示し入浴の楽しさを含め、本人の体調や希望に沿って支援している。	一面のみから脚を入れる一般家庭の浴槽の上部には、銭湯の壁面にも似た利用者の描いた富士山が掲げられています。週3日を清潔保持のめやすとして勤めていますが「お風呂が愉しみ」という人はいません。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の生活リズムを考慮し安心、安全な環境を支援することにより気持ちよく安眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬説明書を保管 管理し服薬状況の理解と症状の変化確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を参考にしたり、個々の得意分野を見出し気分転換を図りながら、役割、楽しみ事を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望、家族希望の意向を受け入れながら施設内のイベント行事、地域のイベントなど楽しみ協力しながら出かけられるよう、外出支援に努めている。	気候のよい時節には動物園や富士川楽座へと足を延ばすこともあり、行楽でのお弁当は職員手作りのお稲荷さんでハレの日としての食もともに堪能しています。好天であれば散歩にですが、車いすの人もいるため日毎の順番となることもあります。	身体状態や発語もまちまちのため、日常的な外出に偏りがでないよう定期で記録を見比べ検証することを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭の所持は控えて頂いている。外出時等、職員の管理の元使用できる様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の意向により電話の取次ぎは可能である。電話の他手紙を書くことも促している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気、季節感をとり入れた掲示物により居心地良く過ごせる居場所の確保に努めている。	空気の流れを促進するために扇風機が配され、朝のトイレ・居室、昼の掃き、夜の拭きと掃除の回数を重ねています。ペットボトルのキャップを活用して制作したミニ帽子や行事写真をデコレーションしてギャラリー風に模すといった工夫が光ります。	目立たないエリア(例. ベッドの脇や階段の棧)に埃がたまっていました。曜日で掃除箇所を決めるといった方策を講じることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員のフォローのもと、落ち着いた環境のなかでの居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染の物を優先し、いつまでも安心して過ごせるよう支援している。個々に必要としている介護品も利用者に合わせて対応に努めている。	ベッドは当初からレンタルです。身体状態の変化で速やかに替えることができ、本人負担が少ないというメリットを享受しています。家族から漫画本が持ち込まれたり、仏壇やテレビと馴染みのものが並んでいました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安心、安全、自立の生活が送れるよう個々の対応に努めている。		